



## 2021年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年11月9日

上場会社名 東海汽船株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9173 URL <https://www.tokaikisen.co.jp>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)山崎 潤一  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 管理本部長 (氏名)倉崎 嘉典 (TEL)03-3436-1131  
 四半期報告書提出予定日 2021年11月10日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年12月期第3四半期の連結業績 (2021年1月1日～2021年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第3四半期	8,135	19.8	431	—	399	—	117	—
2020年12月期第3四半期	6,792	△21.5	△319	—	△197	—	△132	—

(注) 包括利益 2021年12月期第3四半期 249百万円 (—%) 2020年12月期第3四半期 △217百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第3四半期	53.71	—
2020年12月期第3四半期	△60.44	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年12月期第3四半期	24,851	6,306	19.8
2020年12月期	21,431	4,837	22.3

(参考) 自己資本 2021年12月期第3四半期 4,926百万円 2020年12月期 4,773百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期	—	—	—	0.00	0.00
2021年12月期	—	—	—	—	—
2021年12月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は12月31日を期末配当基準日と定めておりますが、現時点では期末配当予想額は未定であります。

### 3. 2021年12月期の連結業績予想 (2021年1月1日～2021年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	10,800	20.4	90	—	120	—	△120	△54.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)：有  
新規 1 社(社名)小笠原海運株式会社、除外 1 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年12月期3Q	2,200,000株	2020年12月期	2,200,000株
② 期末自己株式数	2021年12月期3Q	5,156株	2020年12月期	5,156株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年12月期3Q	2,194,844株	2020年12月期3Q	2,194,855株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・期末配当予想につきましては、今後も経営環境に不確定要素が多いため、現段階では前回発表と同様に未定とさせていただきます。なお、予想額は第4四半期の状況を見極め速やかに開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(表示方法の変更) .....	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) .....	8
(追加情報) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、依然として新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が断続的に発出されたことにより、社会活動が制限され、景気は依然として厳しい状況にあります。先行きについては、感染防止対策を徹底し、ワクチン接種を促進する中で、各種政策の効果等もあって、企業収益など一部に持ち直しの動きがみられるものの、新たな変異株などによる感染再拡大の懸念もあり、不透明な状況が続くと見込まれます。

当社グループを取り巻く環境は引き続き厳しく、当第3四半期連結累計期間は緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が繰り返され、観光や移動の自粛が要請されたことに加え、夏季の台風等の影響もあり、乗船客数が減少し、また関連する大島島内でのホテルやバスなどの利用実績も減少しました。一方で、貨物輸送量はコロナ禍の巣ごもり需要を反映し、生活関連品目の宅配の増加等によりほぼ堅調に推移しました。

このような状況の下、当社グループでは、流動性資金を確保し、利用客の需要に合わせた船の減便や役員報酬の一部自主返上、諸費用等のコスト削減に加えて、雇用調整助成金や各種補助金等の活用に努めました。また、消毒の徹底、マスクの着用、三密の回避、船内換気・抗菌コーティング、乗船時の検温実施、従業員のワクチン接種促進など感染拡大防止に取り組み、お客様と従業員の安全確保を図りました。

なお、当社は、持分法適用関連会社としていた小笠原海運株式会社について、営業面等での更なるシナジーを追求するため、5月に共同出資会社である日本郵船株式会社より出資持分を追加取得し、6月末より連結子会社化いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、国及び東京都からの支援や小笠原海運株式会社の連結子会社化効果等により、売上高は8億1千5百万円（前年同期6億7千2百万円）、営業利益は4億3千1百万円（前年同期営業損失3億1千9百万円）、持分法による投資損失7千4百万円を営業外費用に計上し、経常利益は3億9千9百万円（前年同期経常損失1億9千7百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億1千7百万円（前年同期純損失1億3千2百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりです。

#### 《海運関連事業》

主力の海運関連事業の旅客部門は、さるびあ丸・セブンアイランド結の就航1周年記念ツアーや謎解きツアー、日本旅客船協会公認事業の「御船印（ごせんいん）プロジェクト」の企画商品販売などを行いましたが、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が繰り返されたことに加え、1～3月開催の大島の最大イベント「椿まつり」がオンライン開催となったことから、観光客は減少し、旅客数は2億5千8千人（前年同期2億7千4千人）となりました。また、東京湾の夏の風物詩であった東京湾納涼船は感染防止の観点から昨年に続き運休を余儀なくされました。この厳しい状況の下、国及び東京都からの支援により生活航路の維持を図ることができました。一方、貨物部門は、お客様の利便性と集荷効率の引き上げを引き続き図り、集荷に遺漏がないよう取り組み、またコロナ禍の巣ごもり需要を反映し、生活関連品目輸送量の伸びもあり、貨物取扱量は全島でほぼ前年並みの2億1千5千トン（前年同期2億1千6千トン）を確保しました。

なお、連結子会社化した小笠原海運株式会社の損益を当第3四半期連結会計期間より当セグメントに加えております。

この結果、当事業の売上高は、7億2千9百万円（前年同期5億3千3百万円）、営業利益は7億6千7百万円（前年同期2億2千1百万円）となりました。

#### 《商事料飲事業》

商事部門は、貨物部門並びに島内外の取引先と連携を密にし工事情報を積極的に収集しましたが、公共工事が停滞したため島嶼向けセメント販売が落ち込みました。また料飲部門も、緊急事態宣言発出等による船内レストランの営業休止等により売上が減少しました。この結果、当事業の売上高は7億8千1百万円（前年同期8億8百万円）となりましたが、費用削減に努め営業利益は6千3百万円（前年同期6千4百万円）となりました。なお、5月より竹芝客船ターミナル内のレストランをリニューアルオープンいたしました。

《ホテル事業》

大島温泉ホテル事業は、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が繰り返されたことに加え、大島の最大イベント「椿まつり」がオンライン開催となったことから、秋以降には「ワクチン接種割引商品」等で集客に努めたものの、宿泊客は大幅に減少しました。この結果、当事業の売上高は1億1千万円（前年同期1億4千5百万円）、営業損失は4千5百万円（前年同期営業損失3千7百万円）となりました。

《旅客自動車運送事業》

当事業の中心となる大島島内におけるバス部門は、お客様に安心してご乗車頂くため、感染予防対策ガイドラインを踏まえた感染防止に取り組み、また貸切バス安全性評価制度三ツ星認定の下、安全運行に努めてまいりました。緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が繰り返されたことに加え、大島の最大イベント「椿まつり」がオンライン開催となったことから、乗客数は大幅に減少しました。この結果、当事業の売上高は1億6千4百万円（前年同期1億8千4百万円）となりましたが、費用削減に努め、また大島町からの支援により、営業損失は2千1百万円（前年同期営業損失3千8百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債および純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は248億5千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ34億2千万円増加しました。その主な要因は、当第2四半期連結会計期間において持分法適用関連会社であった小笠原海運株式会社の株式を追加取得し、連結子会社化したことに伴い、同社の総資産が55億8千3百万円増加した一方で、前連結会計年度末までの持分法投資損益を反映した投資有価証券が13億1千3百万円減少したこと、また、同社を除く未収消費税等が8億4百万円減少したことなどによるものです。

負債は185億4千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ19億5千1百万円増加しました。その主な要因は、連結子会社化した小笠原海運株式会社の負債が28億4千3百万円増加した一方で、同社を除く借入金が9億9千4百万円減少したことなどによるものです。

純資産は63億6百万円となり、前連結会計年度末に比べ14億6千9百万円増加しました。その主な要因は、連結子会社化した小笠原海運株式会社の非支配株主持分が13億4千1百万円、利益剰余金が1億1千7百万円増加したことなどによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年12月期の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき連結及び個別の通期業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、2021年11月8日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,027	4,982
受取手形及び営業未収金	1,707	1,649
商品及び製品	56	60
原材料及び貯蔵品	474	622
未収消費税等	811	19
その他	382	125
流動資産合計	5,459	7,460
固定資産		
有形固定資産		
船舶	16,533	21,153
減価償却累計額	△4,216	△6,486
船舶（純額）	12,317	14,667
建物及び構築物	1,612	2,077
減価償却累計額	△1,161	△1,219
建物及び構築物（純額）	450	857
土地	286	296
建設仮勘定	307	113
その他	1,843	2,028
減価償却累計額	△1,584	△1,789
その他（純額）	259	239
有形固定資産合計	13,622	16,173
無形固定資産	130	128
投資その他の資産		
投資有価証券	1,613	350
繰延税金資産	472	583
その他	153	171
貸倒引当金	△19	△16
投資その他の資産合計	2,219	1,088
固定資産合計	15,972	17,391
資産合計	21,431	24,851

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	716	1,276
短期借入金	3,052	2,715
未払法人税等	12	95
賞与引当金	33	153
その他	803	717
流動負債合計	4,619	4,958
固定負債		
長期借入金	10,351	11,756
繰延税金負債	5	3
退職給付に係る負債	1,239	1,497
特別修繕引当金	306	272
その他	70	56
固定負債合計	11,974	13,586
負債合計	16,593	18,544
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,100	1,100
資本剰余金	693	693
利益剰余金	2,933	3,051
自己株式	△10	△10
株主資本合計	4,717	4,834
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	56	91
その他の包括利益累計額合計	56	91
非支配株主持分	63	1,380
純資産合計	4,837	6,306
負債純資産合計	21,431	24,851

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年1月1日 至2021年9月30日)
売上高		
海運業収益	5,668	7,149
その他事業収益	1,124	986
売上高合計	6,792	8,135
売上原価		
海運業費用	4,952	5,871
その他事業費用	1,252	976
売上原価合計	6,204	6,847
売上総利益	587	1,287
販売費及び一般管理費	906	856
営業利益又は営業損失(△)	△319	431
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	9	6
持分法による投資利益	66	-
貸倒引当金戻入額	15	3
賃貸料	10	10
保険料	10	28
助成金収入	58	70
その他	24	22
営業外収益合計	195	142
営業外費用		
支払利息	67	92
持分法による投資損失	-	74
その他	6	6
営業外費用合計	73	174
経常利益又は経常損失(△)	△197	399
特別利益		
国庫補助金	3,544	-
固定資産売却益	178	-
負ののれん発生益	-	0
段階取得に係る差益	-	4
特別利益合計	3,722	4
特別損失		
事業撤退損失引当金繰入額	4	-
事業撤退損	258	-
固定資産圧縮損	3,544	-
特別損失合計	3,806	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△281	403
法人税、住民税及び事業税	163	90
法人税等調整額	△295	98
法人税等合計	△132	189
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△149	214
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△16	96
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△132	117

四半期連結包括利益計算書  
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△149	214
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△68	35
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	△0
その他の包括利益合計	△68	34
四半期包括利益	△217	249
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△201	152
非支配株主に係る四半期包括利益	△16	97

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「保険料」及び「助成金収入」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた93百万円は「保険料」10百万円、「助成金収入」58百万円、「その他」24百万円として組み替えております。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第2四半期連結会計期間において、小笠原海運株式会社の株式を取得し子会社化したため、連結の範囲に含めております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の影響については今後も広がり方や収束時期等を正確に予測することは困難な状況にありますが、当第3四半期の連結財務諸表作成時において外部情報を含んだ入手可能な情報等を踏まえ、当該影響が2021年12月末頃まで続くなどの仮定を置き、会計上の見積りを行っております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	海運 関連事業	商事 料飲事業	レストラン 事業	ホテル 事業	旅客自動車 運送事業	合計		
売上高								
外部顧客への売上高	5,668	740	66	144	172	6,792	—	6,792
セグメント間の 内部売上高又は振替高	65	67	0	0	12	147	△147	—
計	5,733	808	67	145	184	6,939	△147	6,792
セグメント利益 又は損失(△)	221	64	△191	△37	△38	18	△337	△319

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△337百万円には、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△339百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2021年1月1日 至 2021年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	海運 関連事業	商事 料飲事業	レストラン 事業	ホテル 事業	旅客自動車 運送事業	合計		
売上高								
外部顧客への売上高	7,149	714	—	110	161	8,135	—	8,135
セグメント間の 内部売上高又は振替高	59	66	—	0	3	130	△130	—
計	7,209	781	—	110	164	8,265	△130	8,135
セグメント利益 又は損失 (△)	767	63	—	△45	△21	763	△332	431

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△332百万円には、セグメント間取引消去1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△334百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

第2四半期連結会計期間より、「海運関連事業」において、小笠原海運株式会社の株式を取得し子会社化したことに伴い、連結の範囲に含めております。

これに伴い、前連結会計年度に比べて、当第3四半期連結会計期間末の「海運関連事業」のセグメント資産が4,271百万円増加しております。